

生ごみ自家処理 こうしてためています!

環境を考え行動する会

川崎市・村山 美香子



小学校にて

ダンボールコンポストで広がる“人の輪”

「次世代の子供や孫によりよい環境を残すために、できることから始めよう」と集まった主婦たちが2007年8月に設立したのが「環境を考え行動する会」です。

川崎市ではレジ袋でゴミを出してよいということから、ほとんどの人がスーパーなどでレジ袋をもらっている実態があり、まずはレジ袋の削減に取り組みました。その結果、生ごみを減らせばレジ袋も減ると気づきました。そのとき出会ったのが、福岡の循環生活研究所のダンボールコンポストでした。この4年間にさまざまな講習会を開催し、イベントに出展して、現在約1200名に広めました。

生ごみの堆肥化は継続してこそ意味があるので、アフターフォローは欠かせません。「いかがですか?」の電話かけや、アンケートと後半の注意点を郵送したり、メール通信を発信したりして、実践者のバックアップに重点を置いています。しかし、継続の「大きな鍵」を握るのは、実践者の方が家庭菜園をしたり、花を育てるといった動機づけがあるかどうかです。私たちも2年前から4坪の実験畑で野菜を収穫して、生ごみ堆肥の優位性を実感しています。

川崎市は人口143万人の政令都市で南北に細長く、南部は臨海工業地帯、中部は商業地域、北部は緑地の多い住宅地という特徴があり、できた堆肥の使い道など、生ごみリサイクルも一様ではありません。来秋から南部で先行していた「その他ブラ」の分別収集が全市展開となり、同時に生ごみを含む普通ゴミも週3回から2回の収集となります。今後は生ごみの自家処理を考えるきっかけになるのではと期待しています。

ゴミの削減には市民と行政との連携が大切です。私たちは「川崎市生ごみリサイクルリーダー」として、7区の各区役所ロビーで順次月に1回程度、生ごみリサイクル相談会を行っています。また、昨年5月からは、川崎市地球温暖化防止活動推進センターの一角を借りて、毎水曜日の午後1時に相談窓口を開設しています。これらは必要性を感じた我々からの提案で実現しました。

私たちが力を入れているのは小学校での取り組みで、横浜市2校と川崎市3校をサポートしました。次世代の子供たちに、ゴミの削減と資源循環のしくみを体感してもらうため、家庭から各自が生ごみを持参し、数人のグループで取り組みます。最初子供たちは「くさい、汚い、きもい」と言っていたのが、しだいに臭いも気にならなくなり、中には素手でかき混ぜる子もいるくらい、意識の変化がみられます。そして微生物の存在を肌で感じながら、楽しそうにかき混ぜる姿は、私たちにとてもうれしい限りです。1学年3クラスで廊下にずらりとダンボールが並びとそれは圧巻です!

これからももっと、もっと広がれ“人の輪”!